

# WHEN DISCLOSURE SERVES SECRECY

Steven M. Greer M.D.

Copyright 1999

## 公開が秘密に仕えるとき

スティーブン・M・グリア 医師

著作権 1999年

( [公開プロジェクトのウェブサイトより](#) )

UFO（未確認飛行物体）／ET（地球外知性体）の主題を取り巻く秘密を終わらせることは、賞賛に値する目標である。それはとうの昔に実現されているべきものだった。それは世界を簡単に、根底から変えてしまうだろう。

また一方で、それは危険に満ちている。

UFOに関連する計画を60年近くも実行してきた闇のプロジェクトは、彼らのリングを運ぶ手押し車をひっくり返す公開（disclosure）には興味がない。彼らは、彼らの手押し車を貨物列車に変える公開を欲している。彼らはそうするだけの力と組織を潜在的に持っている。

UFOの主題の公開に伴うシナリオにはいくつかある - そのすべてが人類の本当の最大利益になるわけではない。私は、新著 'Extraterrestrial Contact: The Evidence and Implications (異星人コンタクト：証拠と意味)' の中で、世界が必要とする種類の公開について書いている。誠実な公開。隠し立てのない公開。秘密を民主主義に置き換える公開。平和的な、科学的な、希望に満ちた公開である。

しかし一方、時の支配勢力が見たいと思っている公開もある：操作された公開。権力基盤を固め、恐怖を引き起こすように計画された公開。混沌とビッグ・ブラザーズ（Big Brothers）を益々必要とする心理が、大衆の間に注意深く植え付けられるように仕組まれた公開である。

我々はその計画を目撃してきた。それはきれいな絵などではない。

私は、これを一つの警告として書いている。つまり、羊の皮をかぶった狼たちは実に狡猾である。また、ほぼ無限の資源を手中にしている。彼らと共に働いている大部分の人々は、彼らが狼であることさえ知らない。実のところ、狼の多くは彼ら自身を羊であると思いついてきたように思える。

UFO問題は、意図的に曖昧化され神秘化されてきたほどには不可解ではない。権力と計

画が静かに強化される一方で、混乱と透明性の欠如が、この問題を社会の長距離レーダー画面から外れたままにしておくという、より大きな隠された目的に役立っている。そして、このすべての秘密よりも社会にとり危険な一つのことは、秘密の保持者たちにより実行される、計画的な仕組まれた公開である。

長い間、そのような計画が練られてきた - 好機が到来したときに実行されるために。何かの期待が高まる時。社会が混乱するとき。もしかすると、千年至福の熱狂のときか？

私は、このような計画に深く関わる多くの人々と直接会ってきた。私はここで根拠のない推測を述べているのではない。知ってほしい： UFO の現実性についての公開が、とても慎重に計画されている。まさに適切なやり方で、その主題のつくり話が熱心に画策されることになるだろう - 秘密の保持者たちの栄光と権力をさらに高める唯一の方法で。それは偽りの公開になるだろう - 長く続く人類破滅の原因から生まれた公開： 身勝手さと貪欲。権力欲。支配欲。優越欲。

我々は、このような問題について分別を持ち、知っていなければならない。油断のない知っている国民だけが、このような欺瞞を見抜くことができる - また、万が一このような計画が実行されても、それを正すことができる。すべての市民は、大いなる価値は知られている真実から来ることを知る必要がある。しかし、分別のある市民は、次のことも覚えておかなければならない： ‘真実’ のつくり話は、繰り返し繰り返し語られる可能性がある - 秘密と公然たる権力を切望する輩の目標が達成されるまでは。考えてほしい： 公開の一つのシナリオは、UFO と地球外知性体の主題が、科学的かつ希望に満ちたやり方で認知されるというものだ。管理部門と議会の監視を欠いた、行き過ぎた秘密は終わらされる。人類は平和的な関係を目標とし、他文明との開かれたコンタクトを受け入れ始める。現在抑圧されている技術は、その普及が認められる： 汚染は解消する。豊かな経済と社会的公正が、揺るぎなく確立される。地球環境の破壊と気の遠くなるような世界の貧困は、遠い記憶となる。ゼロポイントに基盤を置くエネルギー装置により、世界は転換する。電気重力装置が、世界の貴重な沃野を舗装することなしに、地表面上を浮遊しながら移動することを可能にする。かつて一人の ET がフィリップ・コース大佐に語ったように、“それは新しい世界だ、もしあなたたちがそれを手にすることができれば...” これが我々が取り組んでいる公開である。

しかし、上記に思い描いた公開は、1950 年に起きていたはずだった。それが起きなかったのはなぜか？ そのような公開は現体制の全面的な転換を引き起こす、というのがその理由だった。集権的なエネルギーシステムは時代遅れになっただろう。石油の用途は潤滑油と合成化学のみになっただろう。今日の地政学的秩序は忘れられたものになっただろう： 地球上のどの国も人々も、このような高度な進展と進歩を享受し、それによりすべての国家は世界というテーブルに一つの席を持つことになっただろう。権力を分かち合うことが必要になっただろう。どこか他の場所から来た生命を平和的に受け入れることにより、地球がとても小さな、まさに有機的な故郷そのものであると思えるようになっただろう。数兆ドルの世界の軍産部門は抑制されただろう。そして、普遍的な精神性が兆し始めたかも

しれない...

だが、覚えてほしい。このシナリオを恐れるきわめて強力な利害勢力がある。彼らにとり、それは彼らが知っている世界の終わりである。それは集権的な、選ばれた少数者の権力の終わりである。それは、今日地球上のほぼ 90 パーセントの人々を石器時代からやっと一歩踏み出した状態に置き去りにしている、地政学的秩序の終わりである。そして彼らは、彼らが振りかざしている権力を分かち合うことを望まない。

さて、私はこれらの闇の支配計画を喜ばずであろう '公開' について説明しよう。これは、ただ一つの明快な目標を持つ偽りの、または仕組まれた '公開' である - 彼らの権力と彼らのパラダイムの一層の強化。それは愛ではなく、恐怖に関与する。それは平和ではなく、戦争に関与する。それは和合ではなく、分裂と闘争に関与する。それは支配のパラダイムである - だが、それは徐々に静かに去りつつある。それなら、UFO と ET の主題の注意深く画策された '事実' の公開が、彼らの権力を保証できるのではないだろうか。これが、恐れるべき公開である。これが、警戒すべき公開である。これが、すでに起きている公開である。

UFO に関連する計画に従事してきた秘密工作員たちとの過去 9 年間に及ぶ会合で、私は完全にスパイ小説から抜け出した数人の人物と会うことになった - さらに多くの人物とも。民間先端企業、ペンタゴン、あるいは深夜の私有マンションなど、どの会合でもある主題 (theme) が浮かび上がった。それは途方もない、しかし現在は隠されている権力である。それは、我々が知っている政府を超越する (現時点で、'我ら人民...' の政府はこの問題に関しては無関係になっている)。そして、その主題は二つの主要な要素 (strands) を持っている - ET 主題の密かな最終的軍事化、そして異様としか思えない奇妙な宗教的傾向である。

ここで我々は、実に幾つかの奇妙な同類たちを見出す。ある種の異様な終末論的傾向を共有する実業家と共謀した、戦争屋と軍事主義者たち：異星人とのアルマゲドン (最終戦争) - または少なくともその脅威 - を思い描く、暗い未来展望。このような主題は、軍備競争を宇宙に拡大するための深い闇の軍産計画と共に、時代錯誤で狂信的な宗教的動機を支持する。

実際に、いわゆる '民間 UFO 団体' の中心人物たちは、そのような信念と行動計画に捕らえられている。それがとても信じ難いものであることを、私は認める。しかし、ここで述べているのは我々がこれらの活動に侵入して知ったことである。

軍産の観点からすると、最高の公開は UFO/ET 問題を脅迫的なやり方ででっち上げるものである。もし宇宙からの脅威を認めさせることができれば、(レーガン大統領が好んで言ったように) そのとき全世界をそのような脅威と戦う必要性の周りに結束させることができる。これは次世紀、またその後まで十分に続く、数兆ドル強の軍産予算支出を確実にするだろう。もしあなたが冷戦には費用がかかったと考えるなら、この宇宙の '脅威' が

らの‘防御’につけられる値札を見るまで待った方がよい：冷戦に使われた数兆ドルなど、破格の安値に見えるようになるだろう。

時代錯誤で狂信的な宗教団体も、同様に、アルマゲドンの約束が成就されることに大きな既得権益を持っている。闇の UFO プロジェクトを実行している輩の信念体系の中で大事に信奉されている、ある終末論的パラダイムは、天国における宇宙的闘争の描写により支持されている。どうだ！我々は、邪悪な侵略するエイリアン(宗教用語で悪魔と訳せる)という方向で、UFO/ET 問題をつくり上げる必要があるのだ。実際に、これは‘民間 UFO 団体’とタブロイド・メディア(現時点で、実質的にはすべてのメディア...)のお陰で、すでに成し遂げられている。

加えて、そこには薄くベールで覆われた人種差別としか思えない、言外の意味がある。UFO の‘新たな神話’の一部では、‘良い ET’が語られていることにあなたは気付くだろう。それは常に‘ブレイアデス人’と記述され、‘ハンサム’な白人で、碧い眼をしたアーリア人のようなタイプである。当然ながら、‘邪悪な、悪い ET’は色が黒くて背が低く、奇怪な容貌を持ち、おかしい臭いがする。お願いだ。このようなたわ言は、異星人の多様性を長く続く人類の人種差別で置き換えようとするものだ。このナンセンスとプロパガンダは、ヒットラーを高慢にすることしかできなかった。

ある超大富豪との長時間の会合の中で、私は彼からこう聞かされた。彼は、いわゆる‘エイリアンによる誘拐’の主題を人々の意識に浸透させる UFO 活動に、多大な支援をしている。なぜなら、彼はこの‘エイリアンの脅威’との戦いの周りに人類を結束させたいと思っているからだ。この大変影響力のある人物は、後で私に次のように打ち明けた。彼はこれらの悪魔のような ET たちが、アダムとイブ以来人類が経験したあらゆる挫折の原因だったと信じている。聞いたことがあるだろうか？

軍が関与する人間による誘拐といった、ET 事象をでっち上げる闇のプロジェクトに深く関わる軍の利害勢力は、UFO/ET 現象を悪魔化するという共通の目標を持っている。そうすることで、ET なるもののすべてに向けられる組織化された敵対に必要な、恐怖と不安のための基盤が据えられる。そしてこれは、たとえ世界平和が出現したとしても、地球規模の軍隊を拡張するための論拠を与えるという、持続的要求に役立つ。実際に、このシナリオのもとでは、‘世界平和’または厳密には地球上の平和は、レーガン大統領が言及した‘宇宙からの脅威’に対抗する、最終的に結束した世界により保証されるだろう。(なお、私が個人的に確信していることだが、レーガンは、彼を取り巻き、この主題についての声明を出すよう彼を操った、偽情報工作専門家たちの犠牲者だった)

観測気球 UFO ‘団体’により目下策動され、‘公開’されているこのシナリオのもとで、我々は地球上の平和を手にするだろう - 惑星間紛争と引き換えに。一步前進、十歩後退。お見事だ。

UFO と ET に関する、このような偽りの仕組まれた‘真実の公開’は、こうして強力な

闇の利害勢力の行動計画を助ける。彼らは軍産部門とアルマゲドン - 早ければ早いほどよい - を待ち焦がれる奇妙な宗教的狂信者の集合体の両方にいる。

このような軍事主義者たちとカルト的宗教勢力の奇妙な混合物などありそうもない、と読者が考えるなら、第三帝国の不気味な考えを思い出してほしい。あるいはもっと最近では、ジェームズ・ワッツというレーガン政権の米国内務省官僚の見解がある。彼は 1980 年代に、まだマイクのスイッチが入ったままで話が録音されていることを知らずに、こう述べたのだ。“私たちはこれらの環境問題など、どれも心配する必要はありません。アルマゲドンが近づいており、どのみち世界は破壊されることになるでしょうから...” 米国政府内務省のために政策を企画し実行した人物が抱いていたこの異様な考えは、後に一般メディアで報道された。当時はおそらく話に滑稽な尾ひれを付けて。だが、そのような信念が闇の UFO 政策 - 特に公開計画 - を決定している度合いについて、それは何を示しているか？ 我々が知ったところでは、そのような考え - 大部分の人々には異様に思えるだろうが - は、UFO の主題に関する闇の政策がどういうものを濃厚に表している。

そして、最も当惑すべきこと：軍による宇宙での軍事的威嚇と異様な宗教的信念のこの奇妙な混合物は、‘民間 UFO 界’ および UFO 公開についての計画された最終的 ‘つくり話’ の双方を方向付ける、支配的な力である。買い手は要注意。

理性と知性を持つ人々にとっては、このような考えは馬鹿げたものに思える。あなたはこう訊ねるかもしれない：宇宙空間での宇宙戦争、アルマゲドンと地球の破壊を望む者がいるのはなぜか？ これを理解するには、このような信念を持つ人々の頭の内部に入り込む必要がある - たとえばジェームズ・ワッツのような人々。彼の場合、どうせ数年後に全世界が破壊されることになるなら、なぜ少しばかりの森林消滅、空気汚染、死の海域について心配するのか？

だが、思考はこれよりもっと先へ行く。なぜなら、このような狂信的思考は、アルマゲドンの結果として我々はキリストの再来 - および善良な人々の救済 - を見るだろうという観念を、その中に持っているからだ。さて、人々が何を信じるかは自由だ。しかし、我々が知ったのは、そのような信念により闇の UFO 政策が意図的に及ぼす影響だった。これらの人々の一部はアルマゲドンを望んでいる - 彼らはそれを**一刻も早く**望んでいる。

厳密に言えば、映画インデペンデンス・デイの中で言われた、“エイリアンを全力で蹴っ飛ばす” ことをしたくてたまらない軍事主義者と戦争屋たちは、彼らの存在を正当化する口実と、認識された（仕組まれたものだとしても）宇宙からの脅威に対して、結局は巨額の金を世界に使わせることを本当は望んでいるだけなのかもしれない。

しかし、ある場合には - UFO の秘密を実行している闇の組織の上層部 - それらの二つの考えが交わる。軍事主義と終末論が融合するところ。そこでは、スターウォーズとアルマゲドンが合体する。

民間 UFO 団体と UFO に関係した闇の政策立案グループの双方の歴史を調べていて、我々は後者が前者に益々深く侵入していったのを知った。その結果、現時点では、表向きは無邪気な民間主導だが、実際には超極秘プロジェクトからの‘連絡員’により完全に制御され、資金援助されているプロジェクトが存在する。

さらに、我々がそのようなプロジェクトに注意深く侵入して知った憂慮すべきことは、身分を隠した闇のプロジェクト従業員たちが、言うところの民間研究者、ジャーナリスト、および UFO 有名人たちと緊密に連携して活動しているという事実だった。CIA と軍の情報従業員たちは、終末論者のきわめて裕福な実業家、さらには民間‘シンクタンク’所長たちと共に活動しており、‘民間’科学技術者や科学者たち - 彼ら自身が世界の終わりや ET などに関わる異様な信念体系の支持者である - から助言を受けている。

こうして、新しい‘選ばれし者たち’が招集されてきた。彼らが、UFO/ET の主題について人々の公開を計画している。彼らは、そもそも UFO プロジェクトを実行する秘密組織に入札している拝金主義者と陰の実力者たちに所有されている。それはすべて民間主導のように見える。とても無邪気で、善意に満ちている。そして、とても‘科学的’である。ところで、ET のせいで天が落ちかかっている。それを防衛するために、我々にはあなたの金と魂が必要だ。

騙されてはいけない。誰かが世界に押しつけようとしている暗黒のシナリオに、あなたは気付く必要がある。そして、別のシナリオがあることにも。もし、よそ者嫌いの軍事的な怖い‘公開’が世界に解き放たれたなら、それは秘密の情報操作専門家たちによるものだと思ってほしい - その人物やグループがどれほどに立派に見えようとも。

そして、覚えてほしい：この公開計画の一部として、地上や地球の軍事施設を攻撃するための UFO に見える人間製の装置が使用される。これは、ET の攻撃をでっち上げるため、人間の進歩した技術を使ってうまく仕組まれたものになるだろう - すべてが、都合のよい軍事指向のつくり話を伴った真実を公開するためである。そのようなシナリオの中で、人類の大部分は騙され、宇宙からの脅威がやってきたと信じるようになるだろう - 我々はあらゆる犠牲を払ってそれと戦わなければならない。これは、軍産複合体のための長期社会保障でしかない。この詐欺を暴ける人々がいるはずだ。だが、なぜ我々は、これらの暗黒のシナリオが疑うことを知らぬ世界に解き放たれるのを待たなければならないのか？

ここに、もう一つの発想がある：なぜ‘我ら人民’は、結束して上記に示した最初の公開を立ち上げないのか？ 誠実な公開。戦争ではなく平和に導く公開。汚染がなく、あらゆる豊かさに溢れた持続可能な美しい世界へと導く公開。宇宙の暗黒に向けて粒子光線兵器を発射する代わりに、未知なるものに手を伸ばす公開。この論説で言及されている陰謀について直接の知識を持って名乗り出てこられる人々、このような狂気を暴露したいと思っている人々は、どうか [www.cseti.org](http://www.cseti.org) [または [www.disclosureproject.org](http://www.disclosureproject.org)] に連絡してほしい。秘密の暗黒が耐えられないものは、その真上に照射されるスポットライトである。そのライトを持っている人々が多ければ多いほどよい。

善良な人々が何もしなければ、悪魔が足を踏み入れてくる。これは、人類数千年の歴史を通じて教えられた教訓である。我々は、我々を待ち受ける新時代、新世界の始まりに立っている。しかし我々は、それを受け入れ、それが生まれるように助力する必要がある。我々が受け身でいると、他の誰かが彼らの思うようにやるだろうからだ - 少なくとも、短期的には。

スティーブン・M・グリア 医師  
CSETI 責任者  
バージニア州アルベマール郡  
1999年10月21日

補遺：2002年6月12日  
スティーブン・グリア博士は公開プロジェクト（ディスクロージャー・プロジェクト）の責任者でもある。

ウェブサイト：<http://www.disclosureproject.org>

（訳：廣瀬 保雄）